

学校だより 10月 360号

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/>

「生きる力」と「体験活動」

学校長

現代社会に生きる子どもたち、特にコロナ禍を経験した世代は、ネット等を介して学ぶ「間接体験」やシミュレーションを通して模擬的に学ぶ「疑似体験」の機会が、ますます多くなっていく事が予想されます。それは、それで価値のある事です。

しかし一方で、自然や地域社会と関わりながら「直接体験」をする機会が減ってくるのではないかと心配します。

私たち大人は、これまで多くの失敗を繰り返しながらも、経験や学校で学んだ知識や技能を総動員し、自らの解決策を見出しながら生きてきました。まさに、「直接体験」によって「生きて働く知恵」を積み上げてきたように感じます。

人間関係をうまく作れない、集団生活に適応できない子どもの増加や規範意識の低下、物事に創意をもって取り組む意欲の欠如など、近年の子どもをめぐる課題は、ますます顕在化しています。

文部科学省の調査では、「自然体験の多い子どもの中には道徳観・正義感のある子どもが多い」「自然に触れる体験をしたあと、勉強に対してやる気が出る子どもが増える」と、されており「自然体験活動」の教育的意義は、明白です。しかし、コロナ禍では、大切にすべき学校教育の「直接体験活動」や「自然体験活動」にも、様々な制限がかかります。

私たちは、子どもにとって大切な「体験活動」を如何に充実させていけるのか、連日の話し合いを重ね、『感染症予防対策をしっかりと講じながらの子どもたちの「楽しかった」や「笑顔」』をうみだすために、今後も取り組んでいきたいと考えています。

皆様の変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。



「三浦体験学習を終えて」(5年生引率)

副校長

集合時間の直前には突然の大雨、校庭で予定されていた出発式は急遽体育館に変更。

風が強くシーカヤックは中止、磯遊びも現地に行ってから判断。現地に着くと、強風にあおられた砂や風が体に当たって痛い。こんな状態で子どもたちが楽しむ活動ができるのだろうか…。でも、心配は取り越し苦労。

砂遊びでは、友達と協力して砂山を作ったりグループで穴掘り競争をしたりする子どもたちの様子があった。

砂浜に寝転び空を見上げて「自由だぁ!」と叫ぶ子ども。波打ち際でみんな並んで座り、打ち寄せる波に大はしゃぎ。

磯遊びでは、カニやヤドカリ、小魚など、「見つけた!」「こっちにもたくさんいるよ。」「先生見て!」と瞳を輝かせながら自然の中で友達と一緒に楽しんでいる姿が見られた。また、帰りのバスでは「まだ帰りたくない」「もっとこの時間が続いたらいいのに」といった声も聞こえた。

三浦では、天候の影響で活動に制限がかかる状況においても、子どもたちは自分たちで活動を工夫し、仲間と笑顔いっぱい楽しむことができた。自然と向き合い厳しさを感じながらもびのびと過ごす時間。

子どもたちは、どんな状況にあらうと、その状況の中で友達と協力しながら活動を工夫したり楽しみを感じたりすることができるとは思いませんでした。また、自然の厳しさ・豊かさ、仲間とのつながり…。オンラインや教室の中だけでは味わうことのできない実感を伴った学びの場、学校では見られない子どもたちの姿やかかわりを見ることができた。今後の行事や日々の学校生活も制限がある中ではあるが、子どもたちの思いや意欲を大切にしながら、日々の活動に丁寧に取り組む、よりよい学びを創り上げたい。